

7 / 14 施策発表会開催報告

総務企画部企画課

7月14日(火)、神戸第2地方合同庁舎にて最終講としての施策発表会を開催し、産学民官の観光関係者・報道関係者等、約50名を前に、“みなと神戸を外国人観光客で賑わす策”を発表しました。

1班は、「観光交通の活性化と国際交流都市の復活へ！」をテーマに、京都の例を活かした提案をしました。

交通面として、シティループバスの停留所名に、その観光地を連想させる名前を入れる事や観光客の流れを意識したルート設定の必要性から、産学民官で交通を考える委員会の立ち上げを発表。

交流面として、産学民官で外国人観光客誘致と交流を継続的に考える場の創出と交流の場の提供が出来る大学コンソーシアムの神戸港周辺誘致を提言しました。



2班は、神戸の港・夜景という強みを徹底的に押し出し、人が集まる仕掛けを創るため、「みなとの資源を活かした魅力づくり」をテーマに、屋形船や実現可能性を考慮したカジノ船、リーズナブルに楽しめる宿泊クルーズ船等「色々な船で賑わう神戸港の創出」と、港湾に神戸の異国情緒を活かした世界の食や音楽が集まる「ワールド・ビレッジの創造」を提案しました。

3班は、「全世界へ発信！！みなとまち神戸を知ってもらおう！」をテーマに、外国サイトで“神戸”が検出されないことから、京都の情報発信のあり方を分析し、神戸ビーフが名前の由来である神戸大使のNBA コービーブライアント選手の活用、京都でも利用されているYouTubeによる情報発信等で費用対効果を意識した“神戸”周知策、そして観光を下支えする現地の情報におけるおもてなしについて提言し、産学民官の連携で神戸が大きく変わることを訴えました。



発表後は、各班代表が関元運輸監理部長に提言書を手交。

短期間にもかかわらず懸命に取り組み、京都の学生らしさを活かした画期的な提言をした彼らに、監理部長から激励の言葉を頂きました。

神戸運輸監理部では、同志社大学の学生に頂いた貴重な施策をベースに観光関係者の皆様との連携で、その実現に向けて前向きに取り組み、みなと神戸の外国人観光客数アップにつなげていきたいと考えております。